

「ひとり親サポーター養成講座 in 宮城」開催報告書

日時：2015年11月28日(土) & 29日(日) 9:30-17:00

会場：仙台市エスポールみやぎ

日本のひとり親家庭は貧困率が高いだけでなく様々な課題を抱えています。仕事・生活・離婚前後の状況・子育て・教育・メンタルケア・社会資源…広範囲にわたる情報を知り、支援を行うために、最も現場をよく知る講師陣による養成講座入門編です。本講座の目的は、ひとり親家庭をエンパワーできる支援を行うことで、そのために、当事者の体験を聞き、ひとり親家庭の現状をまなびました。

受講者：1日目:22人、2日目:25人
子ども：1日目:7人、2日目:9人
参加者数：計43人(講師、スタッフ、子ども等含む)

【主催】NPO法人ウィメンズアイ、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

【協力】wawawa(登米市・南三陸町を中心としたシングルマザー親子の任意団体)

【助成】みやぎ地域復興支援助成金、NPO法人くりこま高原・地球の暮らしと自然教育研究所、JWLIの会

【寄付】ロサンゼルス日系アメリカ人 Ohata Family

〈主な受講者〉

シングルマザー当事者(当事者グループ:wawawa(わわわ)、windy's club(ウィンディーズクラブ))、支援機関相談員、NPOスタッフ、県職員、新聞記者、TV関係者、ひとり親家庭の子ども支援に関わる方、ひとり親支援にかかわりたい方。

1日目 11月28日(土)

開始前の30分間は子どもを預けるために慌ただしく親子が往来。wawawaの親子が会場や受付などの準備を手伝ってくれ、みんなの協力で時間ちょうどにプログラムがスタート。2日間あわせて16人来てくれた子どもたちは1階の大広間で仙台の託児スタッフと過ごしました。



◆オリエンテーション

NPO法人ウィメンズアイ(通称:WE=ウィ)代表理事石本めぐみより、講座概要・注意事項の説明後、全員で「講座への期待」をポストイットに書き壁に張り出しました。



◆シングルマザーの現状と支援 -母子福祉施策と子育て支援-

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
赤石千衣子理事長

現役のシングルマザーが集まるグループがない。仲間に出会えなくて孤立している人が多い。子どもを独り立ちさせるのも難しい。など、現状を説明。母子家庭の就労率は80%と世界的にも高いものの、半数以上が非正規で年収が低いことが問題。親世代の不利な状況が子どもに影響していることや宮城では母子世帯の5割が生活費に困っている。支援制度がワンストップでないために認知度が低く、使用度が非常に低いことを指摘。当事者からの質問が相次ぎました。

◆ひとり親が語る「わたしたちの体験」

みやぎシングルマザー親子の会 wawawa メンバーが、自身のこれまでの経験を語ってくれました。母子家庭に対する偏見や生活の難しさ、資格や経

験を活かしてより高所得の仕事に就きたくても、子育てへの理解とサポートのある職場でないと難しいこと。現状では、貧困サイクルから抜け出すことは難しいこと。そんな中で、仲間の存在が支えになっていることなど。

◆日本のひとり親に関する法律手続き、離婚時の手続き、財産分与、養育費、面会交流、親権、家事事件手続法について

佐藤由紀子弁護士

日本国憲法の中での女性の立場や、これまでみてきたDV被害者の実際のケースなどの話の中で面会交流や養育費の具体的な手続き関連などを説明。DVは自尊心、生きる力を奪ってしまう。離婚の事件をたくさんやってきた中で強く願うのは、結婚する前の自分がどういう人だったか思い出し、自分を取り戻して欲しいとの佐藤弁護士からのメッセージも。

◆DV被害者への支援

鈴木えみ子（シングルマザーのWindys Club）

やさしい語り口で、「自分が異常なのだ、弱くて愚かなのだ」ととらえるのではなく、DVという過酷な状況を生き抜いてきた結果なのだ」と再定義する。今後は人権が守られる生活を選択し、心理的回復がはかれるようにエンパワーすることが大事。支援は、孤立させない、チームで対応することなど。

夜には交流会を開催。当事者グループのwawawaとwindy's clubは、はじめての直接交流でした。支援者の方達も当事者のみなさんと一緒に食事をしながら歓談。もちろん子どもたちもまるで大家族の夕食会に大興奮でした。

2日目 11月29日（日）

◆オリエンテーション

全員で自己紹介のワークショップ



◆シングルマザーの就業支援とライフキャリア

仙台市母子家庭相談支援センター

行場麻衣子所長

支援センターの概要説明。離婚前→混乱期→自立期と相談者をトータルにサポート。他の地区では、母子・父子が同じセンターだが、仙台だけシングルマザーの就業と自立をサポートするセンター。母子と父子では悩みが違う上、相談者にDVや離婚で男性に恐怖心を持っている人もいるための配慮。

仙台市母子家庭相談支援センター

母子相談支援員/ライフキャリア・コンサルタント

小林美樹

より詳しく活動を説明。シングルマザーとなる際には、離婚手続きや就職活動、その他煩雑な手続きや物事が順不同に同時多発的に起こるため不安と混乱しがち。情報や知識の不足が顕著で、漠然とした将来への不安が大きくなるので、ほんの少しの成功を積み重ねることで自信を持つことが大事。自信と自尊心を育めば、もしも失敗しても、それを受け入れることができる。

◆ひとり親が語る「わたしたちの体験」

全国父子家庭支援ネットワーク

代表理事村上吉宣

父子家庭になってからの困難について、乳幼児を抱えて仕事に付く事が難しかった経験などを詳しくはなしてくれた。

◆ひとり親家庭の子どもの心と関わり方

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ代表理事 小林純子

子ども専用の電話「チャイルドラインみやぎ」設立や仙台の子育て中のママたちが不足する託児を自分たちで行うようになった経緯など。



◆相談事例検討

赤石千衣子

実際にあった過去の3事例について、グループディスカッションで対応策を考えた。

◆ふりかえり

石本めぐみ

2日間で学んだことをポストイットに書いてもらい、全員に自分のことばで発表してもらいました。



<参加者の声>

講座に参加するのはまだ早いかも、と思ったけど、そうではありませんでした。自分が進もうとしている道はまちがいでないということがわかりました。

ひとり一人のストーリーがあるので、決めつけずに「寄り添う」大切さ。

20年前シングルになった時と今と比べて世間の目は広がっているが生きにくさは増している感じがしました。真の暖かさが欲しいです！

知らないという事は、大きなマイナス、知っているという事は大きな力になる

自分ひとりじゃないんだ。同じ思いをしている仲間がいるんだ、と思いました。

シングルマザー当事者とさまざまな支援の現場の方がまじわる場の大切さ

<成果>

- ・ 当事者と支援者が2日間共に学び合えた。
- ・ 当事者同士、支援者同士、当事者と支援者がつながれた。
- ・ 具体的な支援の情報や相談先などがあることを、当事者が認識できた。
- ・ 支援者側が発信しているつもりの支援策などの多くの情報が実際には当事者に届いていないことが双方で確認できた。
- ・ 当事者の学ぶ意欲が非常に強かった。
- ・ 当事者グループの安心・信頼できる話せる場と仲間が大切かを、当事者自身のことばで語れた。

<スタッフ所感>

講座の中身が当事者にとって辛い過去を呼び覚ますことにもなったので、途中何人かが泣き出す場面もあり、退席をすすめることもあったが、全員最後まで出席した。本人たちの言葉では「乗り越えて学ぶことができた」。2日間の講座が、当事者にとってエンパワーメントの機会となり、少し興奮気味に話しながら帰って行く参加者を見送り、スタッフも感動を分けてもらった。

<NPO 法人しんぐるまざあずふおーらむニュースレター> 一部抜粋

■■宮城

ウィメンズアイさんと共催した、宮城のひとり親サポーター養成講座が11月28日、29日、宮城県仙台市のエスポール仙台で開催されました。南三陸・登米のwawawaのシングルマザー7人や、仙台のウィンディズクラブのシングルマザーが参加してくれました。

講座内容はほぼ東京と同じですが、県内の弁護士佐藤由紀子さんを紹介していただき、仙台のシ

ンママグループ、ウィンディズクラブの鈴木えみ子さんにDV被害者支援について、またMIYAGI子どもネットワークの小林純子さん、仙台市の母子家庭相談支援センター（男女共同参画財団が受託）の相談員さん（人材派遣会社ではたっていた、キャリアコンサルタントの方）が就労相談のところを担当してくださいました。当事者の体験は、wawawaメンバーと、父子家庭支援netの村上吉宣さんが話してくださり、感動を与えました。

参加者には、県の母子家庭等就業・自立支援センターの事務局の方や、女性相談をしている方たち、県の方もいらっしゃり、宮城県内のネットワークがこれからまたできそうです。当事者・支援者まぜまぜがよい感じでした。登米・南三陸町（被災地です）のシングルマザーが7人参加してくれました。

「すべてが役にたった」

あるシングルマザーの言葉です。

今までなかなかえられなかった知識を得ることができたとても喜んでいました。すごい吸収力でした。

今までのwawawaとのつながりと地道にその活動を支えてきたウィメンズアイのとりくみが、これまで被災地支援などでお会いしてきたグループとの出会いがあったからこそです。このつながりがさらにどうなるか楽しみです。来年2月に静岡と沖縄で開催予定です。近隣のみなさま、ぜひご参加を。（あかいし）